

第 2 期

柏市スポーツ推進計画

(中間見直し素案)

柏 市

1 計画の構成（案）（重点的な取り組みの再構成を予定）

第1章 計画の概要

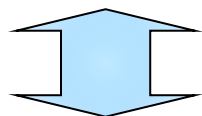
- 1 スポーツの定義
- 2 計画策定の趣旨
- 3 計画の位置付け
- 4 計画の期間

**第2章 計画の基本的な考え方**

- 1 柏市のスポーツを取り巻く現状と課題
- 2 柏市の地域特性
- 3 計画の基本理念と基本目標

**第3章 計画の取り組み**

- 1 多様な参加ができる「する」スポーツの充実
- 2 魅力ある「みる」スポーツの充実
- 3 感動を分かち合う「ささえる」スポーツの充実
- 4 気軽に利用できる「場所」の充実
- 5 スポーツを楽しむきっかけとなる「情報」の充実

**第4章 重点的な取り組み**

（第3章の内容により再構成）

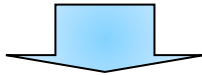
2 第1章 計画の概要

(1) スポーツの定義（論点）

第2期柏市スポーツ推進計画では、
「競技スポーツはもちろん、体力づくり、健康維持・増進のために、計画的・意図的に実施する運動」

及び

「趣味や交流のため気軽に身体を動かすこと、散歩やラジオ体操、サイクリング、レクリエーション活動をはじめ、運動不足解消のために日常の生活や仕事・家事の合間の簡単な運動」と定義。



スポーツ基本法では

「心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵(かん)養等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動」



議題：定義を拡大するか？

e スポーツやマインドスポーツといった大きな身体活動を伴わない競技もスポーツとして捉える動きがあるなど流動性が見られるが、こうした事象を現時点で計画に反映させていくべきか？

(2) 計画策定の趣旨（新型コロナウイルス関連追記）

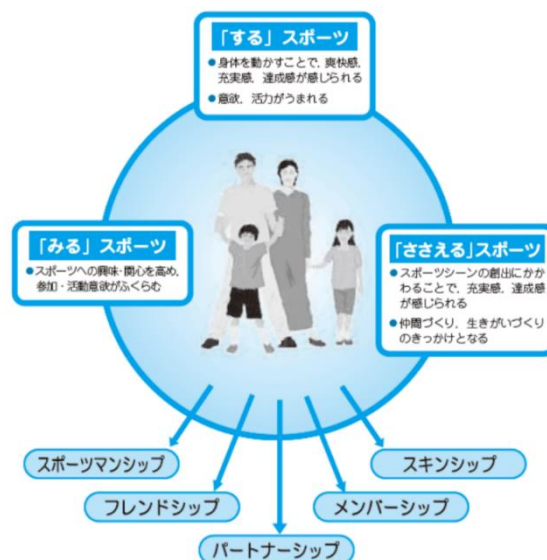
少子・高齢化の進行など，社会環境が変化する中で，スポーツの果たす役割・意義がますます重要になっています。

「する」「みる」「ささえる」といったスポーツへのかかわり方の多様性は，生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を可能にしていくものと考えられ，スポーツを総合的かつ計画的に推進していくことは，たいへん大きな意義があります。

スポーツがもたらす効果は，健康・体力づくりや生活習慣病の予防，達成感や仲間との連帯感に加え，スポーツを通じた地域コミュニティの形成，地域の活性化等に寄与する役割もあります。一方で，昨今の新型コロナウイルスに代表される感染症の拡大によって社会不安が広がるなかで，感染拡大防止とスポーツ活動の両立を目指すために「新しい生活様式」を反映させた取り組みが求められています。

このことから，本市では，安心安全に様々なスポーツに取り組める場や機会を整えていくことで，市民が充実した生活を送り，生涯にわたってスポーツを親しむことができる「生涯スポーツ社会の実現」に向けた施策を計画的に進めていくため，「第2期柏市スポーツ推進計画（中間見直し版（仮）」を策定するものです。

図：スポーツのかかわり方 イメージ



(3) 計画の位置付け（変更なし）

本計画は、平成 23 年 6 月に制定された「スポーツ基本法」に基づき、柏市独自の計画として策定するものです。また、「千葉県体育・スポーツ推進計画」を参酌し、「柏市第五次総合計画」に示されたスポーツ分野等の施策をより具体化するため策定するものです。

(4) 計画の期間（見直しに合わせて文面改訂）

平成 19 年 3 月に「柏市スポーツ振興計画」を策定し、平成 27 年度までの計画期間中の中間点となる平成 23 年度に見直しを行い、名称を「柏市スポーツ推進計画」に改めました。本計画の期間は、平成 28 年度（2016 年度）から平成 37 年度（2025 年度）までの 10 年間とします。なお、計画の中間年次にあたる令和 2 年度（2020 年度）に、計画の進捗状況や社会情勢の変化等を踏まえ、一部改訂を行いました。

3 第2章 計画の基本的な考え方

(1) 柏市のスポーツを取り巻く現状と課題（変更あり）

本市では、市民のスポーツに関する実態を把握するためのアンケート調査を行いました。後述のデータ比較は、令和2年2月の調査とこれまでの計画策定時及び計画見直し時に実施した調査結果を比較したものです。

また、令和2年9月には、市内小学校、中学校、高等学校に対しアンケート調査を行い、スポーツに関する意識を再調査するとともに、子どもの体力の推移について新しいデータを比較対象として記載しました。

本章では、このアンケートの結果を中心に各種既存調査や統計を参考としながら、本市のスポーツの現状を、「する」「みる」「ささえる」といったスポーツへのかかわり方について3つの視点で分析するとともに、スポーツの実践に欠かせない「場所」や「情報」について整理しました。

図 アンケート調査概要

| 対象者 | 20歳以上の市民 | 市内の小学校、 中学校、高校生 | 20歳以上の市民 | 市内の小学校、 中学校、高校生 | 20歳以上の市民 | 市内の小学校、 中学校、高校生 | 20歳以上の市民 | 市内の小学校、 中学校、高校生 |
|-----|---------------|--------------------|---------------|--------------------|---------------|--------------------|---------------|--------------------|
| 抽出 | 住民基本台帳から無作為抽出 | 小学校9校中学校6校高校3校 | 住民基本台帳から無作為抽出 | 小学校9校中学校6校高校3校 | 住民基本台帳から無作為抽出 | 小学校9校中学校6校高校3校 | 住民基本台帳から無作為抽出 | 小学校12校中学校8校高校4校 |
| 発送数 | 1,000人 | - | 1,000人 | - | 2,000人 | - | 2,000人 | - |
| 回答数 | 396人 | 650人 | 361人 | 470人 | 771人 | 595人 | 728人 | 770人 |
| 回答率 | 39.60% | - | 36.10% | - | 38.60% | - | 36.40% | - |
| 実施率 | 33.60% | - | 43.40% | - | 40.10% | - | 47.30% | - |
| 方法 | 郵送法 | 学校にて実施 | 郵送法 | 学校にて実施 | 郵送法 | 学校にて実施 | 郵送法 | 学校にて実施 |
| 時期 | 平成18年7月 | 平成18年7月 | 平成23年2月 | 平成23年2月 | 平成27年2月 | 平成27年4月 | 令和2年2月 | 令和2年9月 |

① 「する」スポーツの現状と課題（データ更新）

① 子どものスポーツ

本市の子どもの体力・運動能力は、千葉県との平均値と同水準または若干下回る結果となっています。男女ともに反復横とびにおいては、改善が見られますが、握力や投力については課題となっています。多様な動きを継続的に実践していくなどの工夫を促していくことが必要です。

【令和2年度第2回柏市スポーツ推進審議会資料】

図 子どもの体力の推移（小学6年生男子）
 （スポーツ庁：体力・運動能力調査参照）（昭和59年～令和元年）

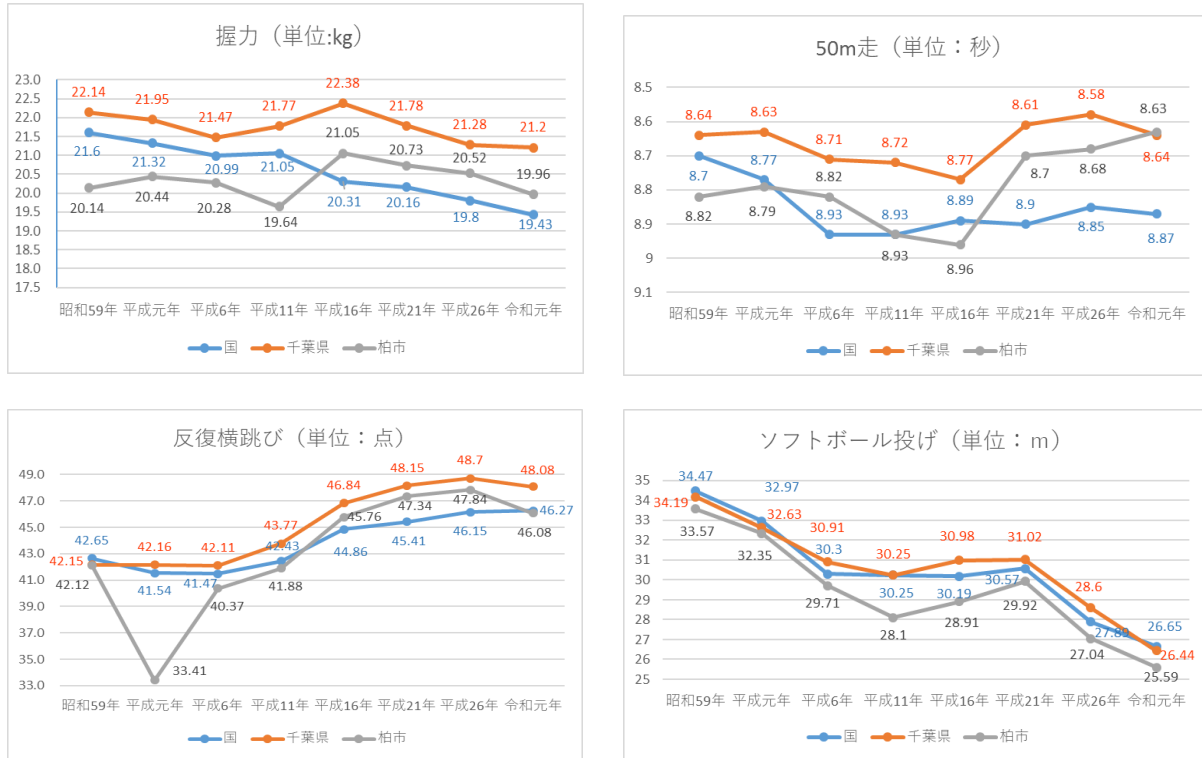
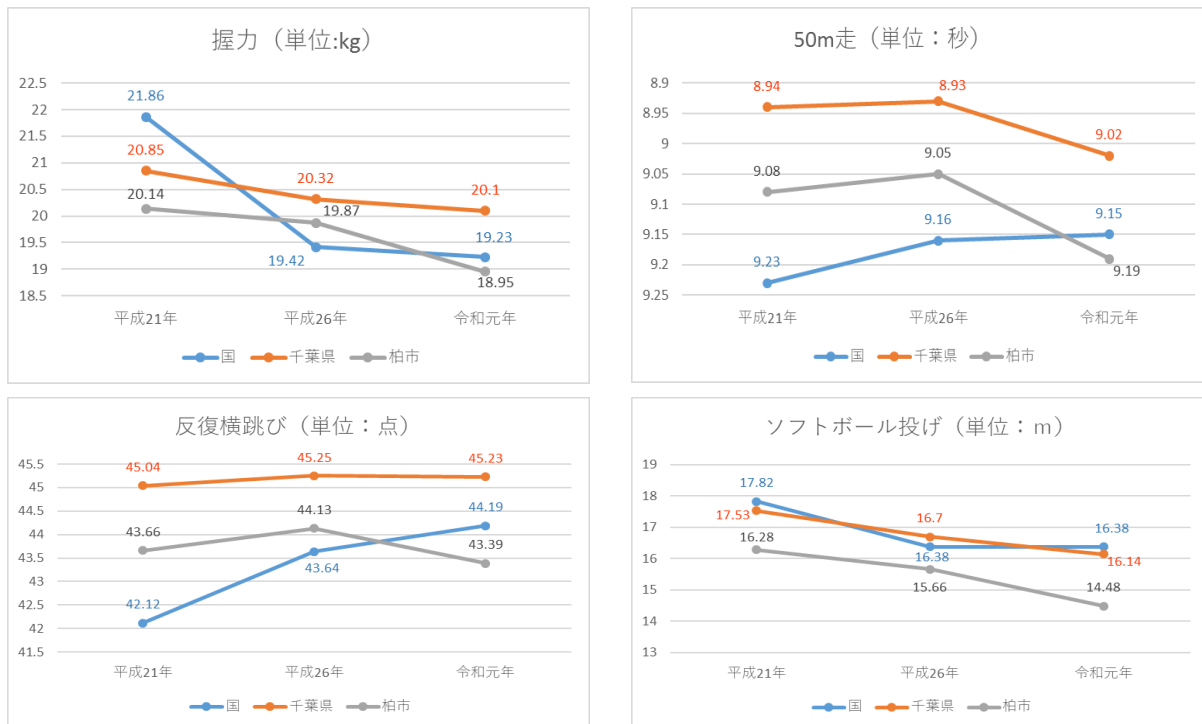


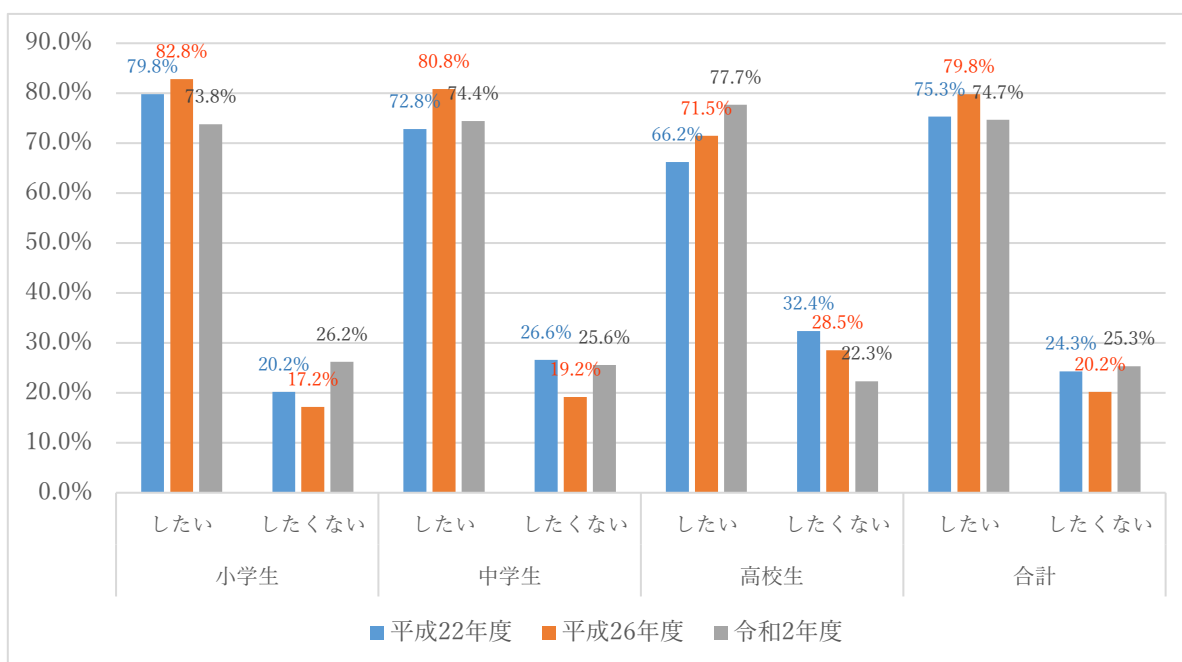
図 子どもの体力の推移（小学6年生女子）
 （スポーツ庁：体力・運動能力調査参照）（平成21年～令和元年）



令和2年度のアンケート調査では、「進んでスポーツ，運動をしたい」と回答した人の割合は全体の74.7%で，平成22年度，平成26年度の調査と比べると児童生徒全体としては，スポーツへの意欲が低下していることがわかります。

各学年層ごとにスポーツへの意欲をみると，小学生において特に意欲の低下が認められ，高校生においては，小学生と対照的にスポーツに対する意欲が調査ごとに向上しています。

図 子どものスポーツへの意欲
(アンケート平成22・26，令和元年度)



■子どものスポーツの課題■

子どもの体力低下の問題に対し，これからは社会全体で子どもの運動機会を確保し，体力の向上を図ることが必要です。そのため，イベントや体験授業を通してスポーツの楽しさを体感してもらうことで，子どものスポーツに対する関心・意欲をより高めていくことが必要です。また，親子でスポーツに取り組む機会を提供していくことで，家族全体に関心を波及させていくことも重要となります。

②成人のスポーツ

スポーツへの意欲は、「スポーツをしたい」と回答した割合が平成 18 年度のアンケート調査以降、漸減しており、令和 2 年度では 71.1%となっています。

また、週 1 回以上のスポーツの実施率は令和 2 年度に 47.3%とこれまでの調査のうち最も高い値となりましたが、全国平均の 53.6%（令和元年度）は下回っており、本計画の数値目標となっている 65%に対しても低い水準が続いています。

引き続き、スポーツをしていない人やスポーツに親しみのない人に対して、継続的にスポーツに取り組むためのきっかけづくりが重要となります。

図 スポーツへの意欲
（平成 18, 22, 26, 令和元年度調査）

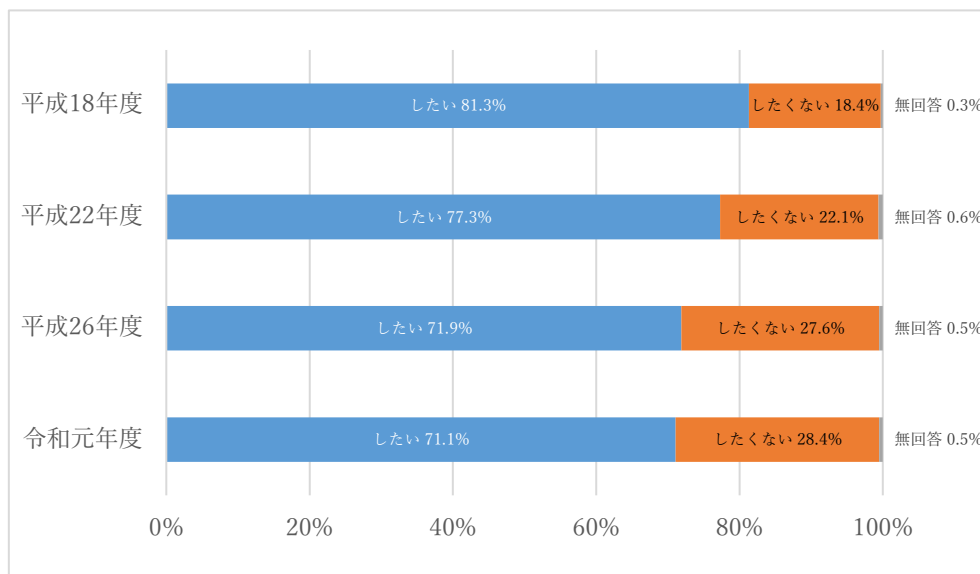
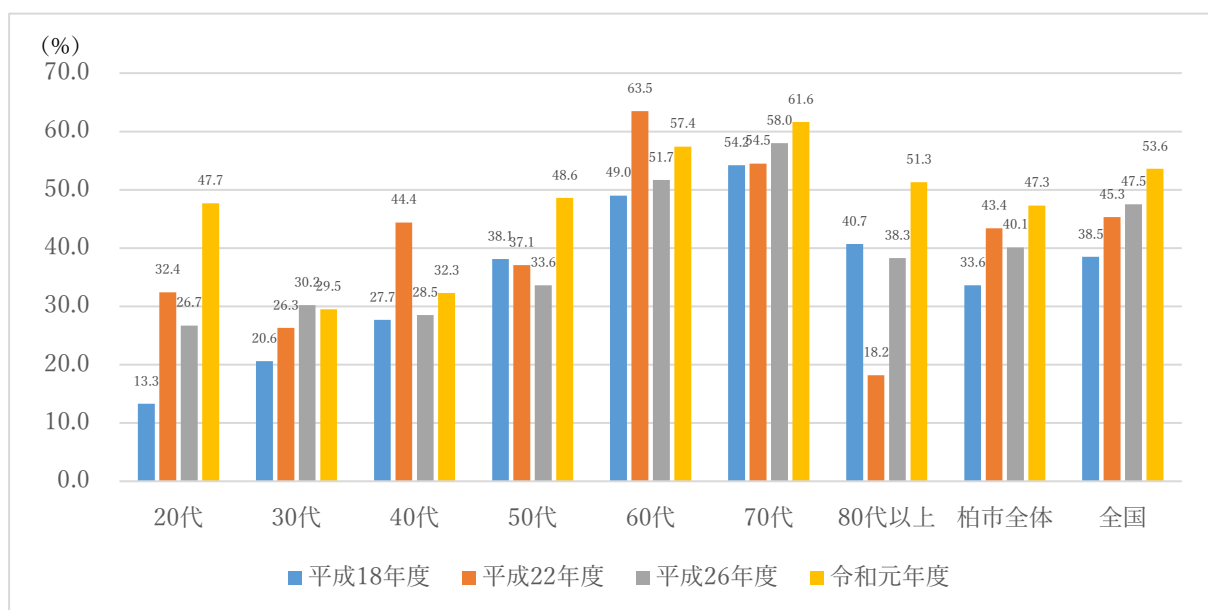


図 週1回以上のスポーツ実施率



スポーツ実施率の週1回以上の実施状況を年代別で見ると、60歳、70歳代の実施率が高いのに比べて、子育て世代である30歳代、40歳代のスポーツ実施率は低くなっています。

その理由としては、「時間が無い」など仕事等により、スポーツ活動に取り組む余暇時間の確保が困難な状況にあることがうかがえます。

図 年代別スポーツ実施状況（令和元年度調査）

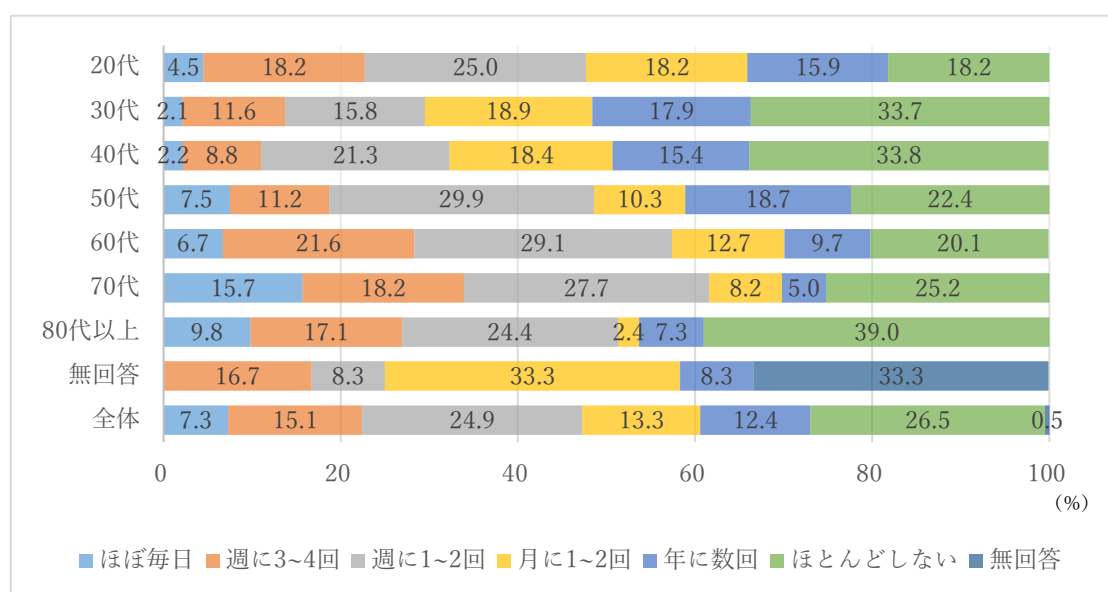
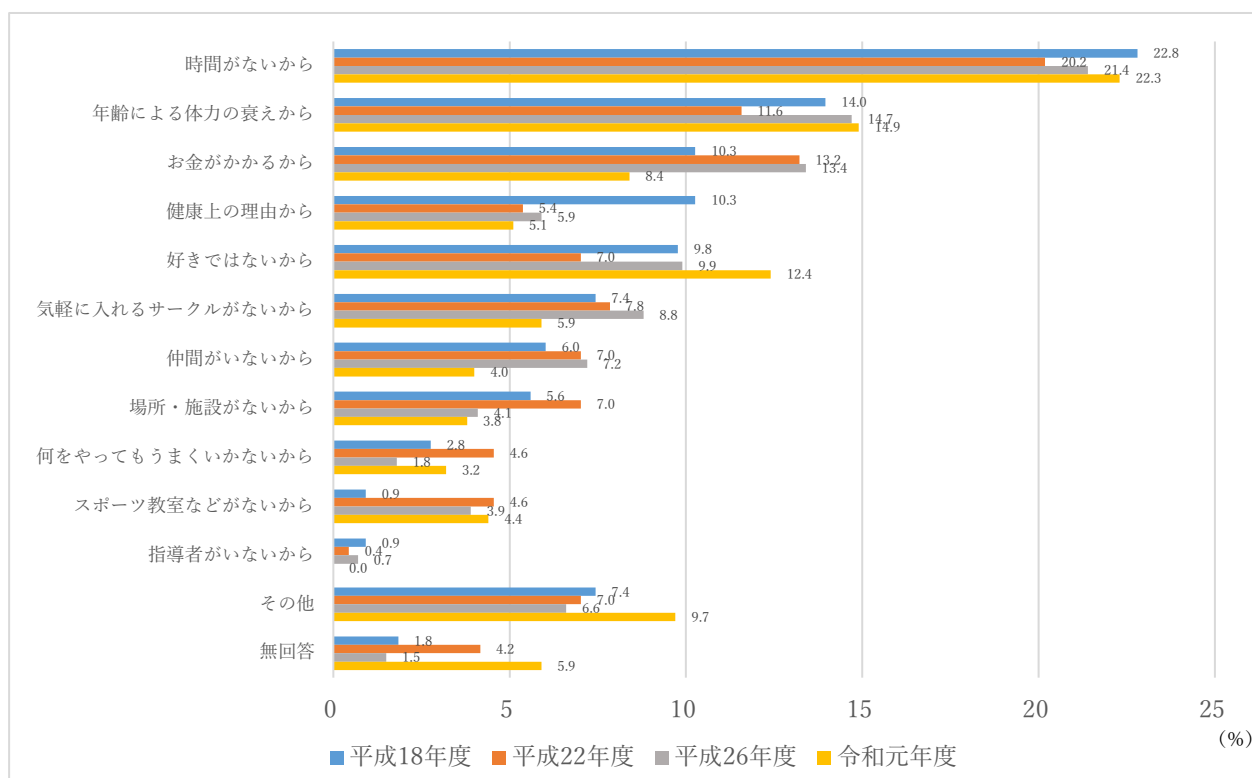
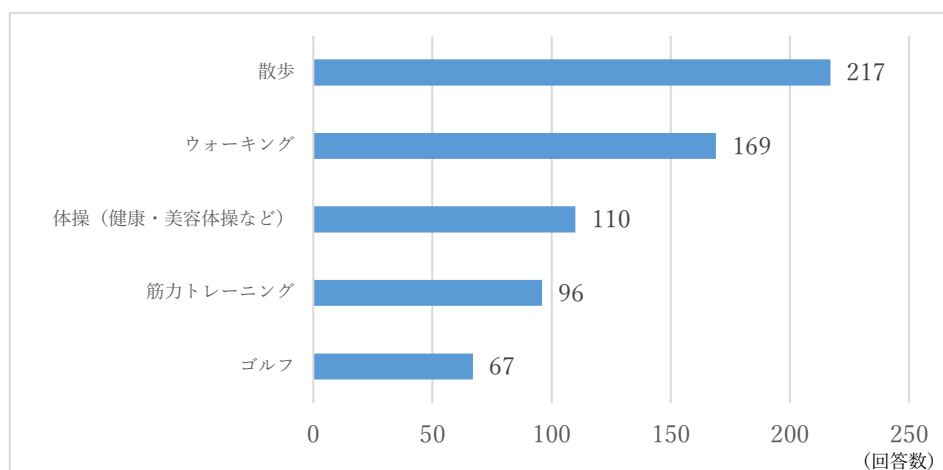


図 スポーツをしない理由
(平成18, 22, 26, 令和元年度調査)



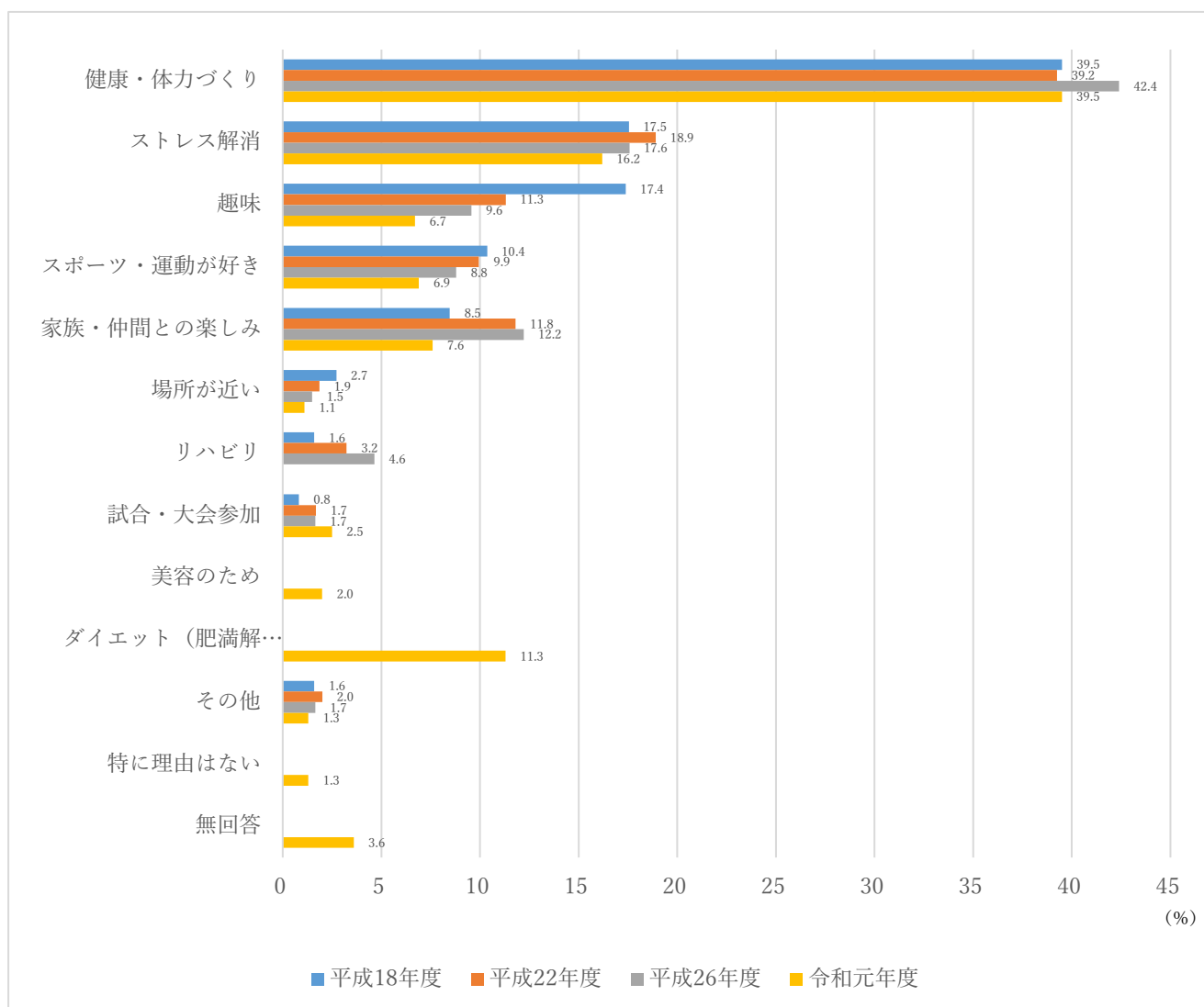
現在行っている種目をみると、ウォーキングや散歩が1位または2位となっています。このことから、手軽にできるスポーツとしてウォーキングや散歩が広く生活の中に浸透していることがうかがえます。

図 実施している種目（上位5種目）（令和元年度調査）



スポーツをする理由として、「健康・体力づくり」が1位、「ストレス解消」が2位となり、次いで「ダイエット」「家族・仲間との楽しみ」が続きますが、経年でも大きな変化はない結果となっています。市民が健康を意識し、自由時間の過ごし方として、スポーツ活動を楽しんでいることがうかがえます。

図 スポーツをする理由（平成18, 22, 26, 令和元年度調査）



■ 成人のスポーツの課題 ■

市民全体のスポーツへの意欲が低下している一方で、個人や少人数で気軽に取り組める運動やスポーツへの関心が強い傾向にあります。

そのため、まずは「健康・体力づくり」など自身の健康増進を見据えた運動やスポーツについて、きっかけづくりや取り組み方法の啓発、サポート体制の充実を中心とした施策を継続的に推進し、スポーツに関わる市民の裾野を拡大していくことが必要です。

また、地域でスポーツ活動に取り組む市民が増えていくことは、市民交流の活発化にもつながり、地域コミュニティの形成や活性化に携わることが出来る地域の担い手づくりを促進する効果も期待できます。

③ 高齢者のスポーツ

成人の週 1 回以上のスポーツ実施率は、令和 2 年度アンケート調査では 70 歳代が最も高く 61.6%、2 位は 60 歳代の 57.4% となっています。この傾向はこれまでの調査と同様であり、仕事や子育てから解放されたことによる自由時間の増大や年齢による健康や体力に対する意識の一層の高まりが、高齢者のスポーツの実施率を高めているものと思われます。

■ 高齢者のスポーツの課題 ■

スポーツのもつ健康や体力づくりの効果を活かすだけでなく、スポーツが多様な活動を通じた交流の場として、生きがいづくりにつながる必要があります。

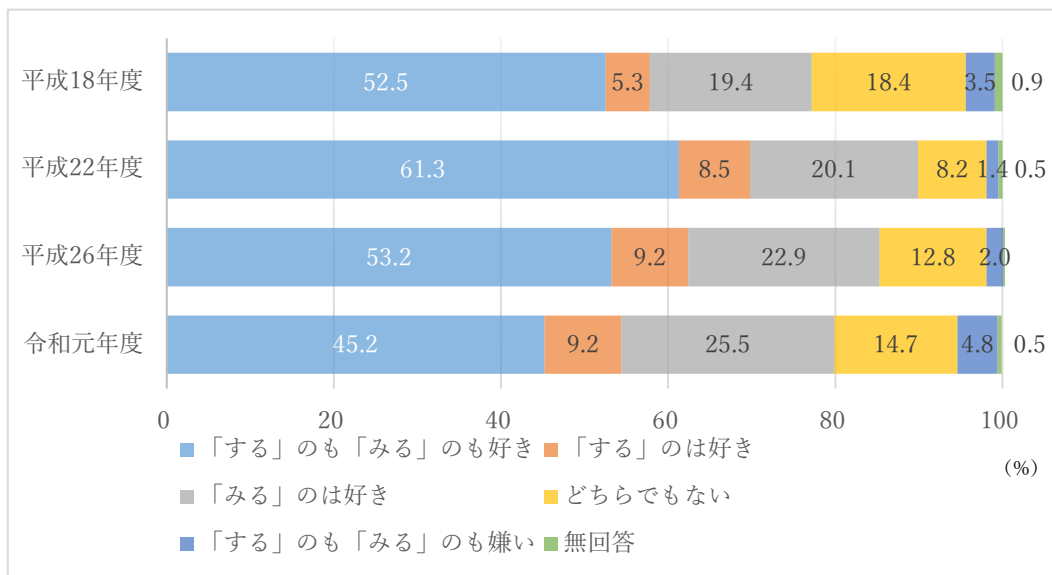
②「みる」スポーツの現状と課題（データ更新）

①スポーツへの関心

スポーツへの意欲と同様に、「する」こと、「みる」ことを合わせたスポーツへの関心は平成22年度の調査以降、低下しています。

一方、「みる」こと単独でみると増加傾向となり、市民のスポーツへの関心は維持されており、スポーツを「みる」ことが生活の中に定着していることがうかがえます。

図 スポーツへの関心（平成18, 22, 26, 令和元年度調査）



②ホームタウンチーム

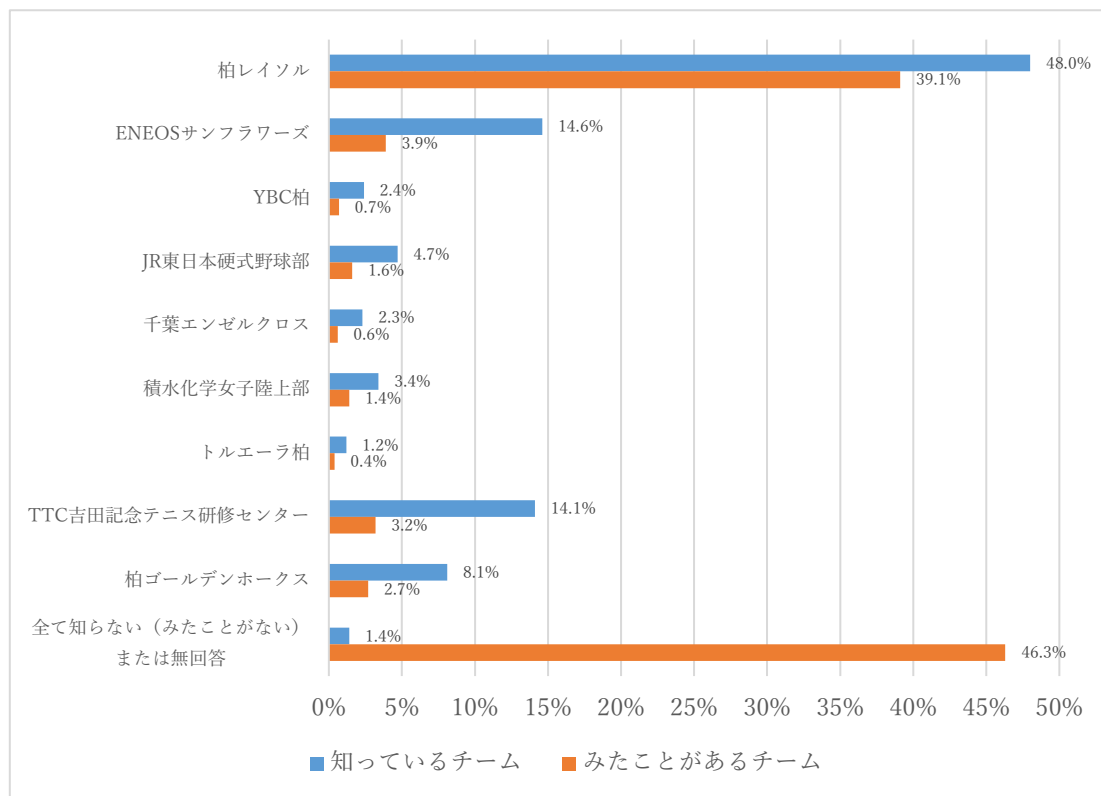
本市には、豊富なホームタウンチームがあります。

ホームタウンチームの認知度や観戦実績においては、「柏レイソル」が突出しており、次いで「ENEOSサンフラワーズ」が続く結果となりました。

「柏レイソル」は、地域にスポーツ観戦の楽しみをもたらすとともに、スポーツのまちを推進する本市のイメージに大きく貢献しています。

一方で、みたことがない（無回答含む）と回答した方が50%弱であったことから、トップレベルの競技スポーツを直に観戦する楽しさを継続して啓発していくことが必要です。

図 知っている/みたことがあるホームタウンチーム
(令和元年度調査)



■ 「みる」スポーツの課題 ■

これまでホームタウンチームを中心に気軽に触れやすいという面から、市民が運動やスポーツを取り組み始めるきっかけ作りとして大きな役割を果たしています。認知度は「柏レイソル」が突出しておりますが、他のホームタウンチームの認知度も高めながら、スポーツへの関心とスポーツ実施率の向上につなげていくことが必要です。

また、スポーツを活かしたまちづくりや地域コミュニティの活性化に向けて、プロアマの区別なくスポーツ団体と協力しながら、「みる」だけでなく、実践して楽しめるスポーツイベントの開催を中心にスポーツ推進を図っていくことも重要となります。

③ 「ささえる」スポーツの現状と課題（データ更新）

令和元年度調査では、スポーツボランティアの経験があると回答した方は6.3%と、依然として低い割合で推移しています。

また、スポーツボランティアへの参加意欲についても、約6割の方が「したくない」又は「興味がない」という消極的な姿勢を示しています。

図 スポーツボランティアの経験
(平成18, 22, 26, 令和元年度調査)

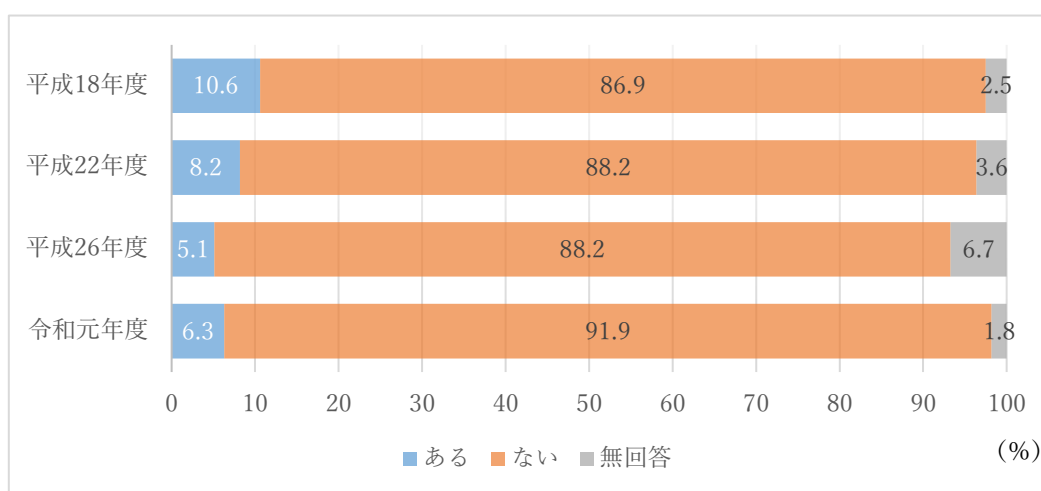
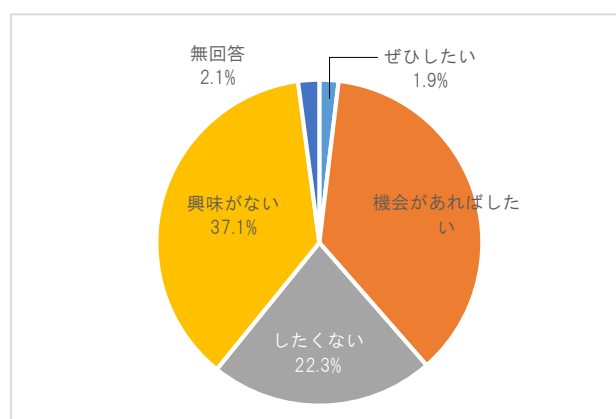


図 スポーツボランティアへの参加意欲
(令和元年度調査)



■ 「ささえる」スポーツの課題 ■

過去の調査と同様にスポーツボランティアに携わる人の少なさは依然として課題としてあります。また、スポーツボランティアへの参加意欲も決して高いという結果ではないため、ボランティア機会の提供を増やすことや情報発信が必要です。

④ スポーツ施設の現状と課題（データ更新）

公共スポーツ施設の週末や休日の利用は各種大会やイベントで飽和状態にある一方で、平日の利用は少なく、利用の促進が必要な状況にあります。

令和元年度調査では、市民の運動・スポーツ活動場所の1位は「道路・公園」で、2位は「民間スポーツ施設」、3位は「自宅」となっており、比較的身近な利用しやすい場所で運動やスポーツを行っている傾向がみられます。

図 運動・スポーツ活動の場所（令和元年度調査）

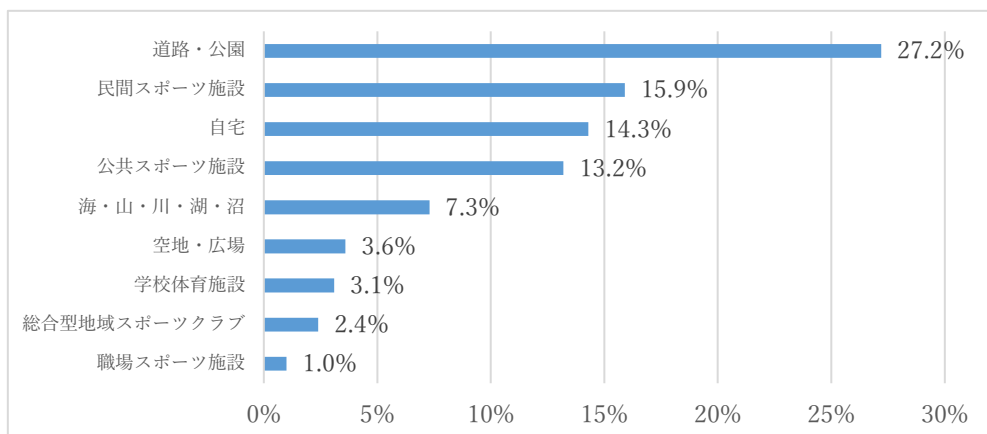
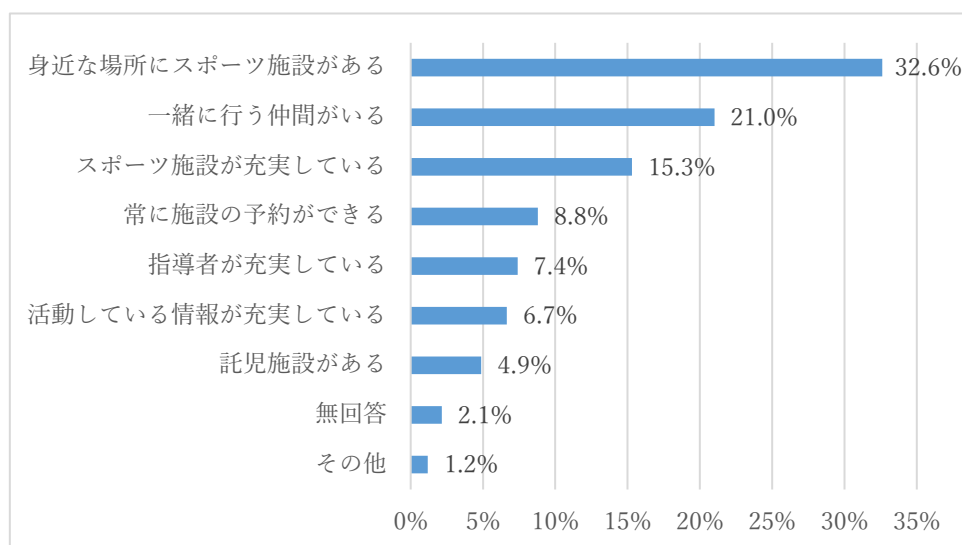


図 どのような環境があると運動やスポーツがしやすくなるか（令和元年度調査）



■ 施設面での課題 ■

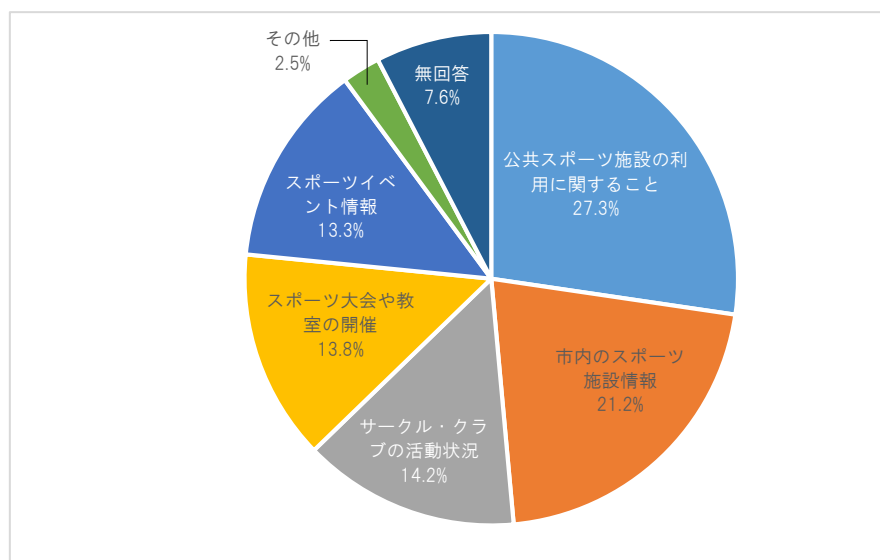
一人でも多くの市民がスポーツに親しめる場所を確保するためには、身近にスポーツが出来る場所として、公共スポーツ施設や学校体育施設の効果的・効率的な運用が必要です。

また、公共スポーツ施設のほかにスポーツに親しめる空間を確保することも重要となります。

⑤ スポーツ情報に関する現状と課題（データ更新）

令和元年度調査では、市民が知りたい情報の1位は「公共スポーツ施設の利用に関すること」で、2位は「市内のスポーツ施設情報」、3位は「サークル・クラブの活動状況」でした。

図 市民が知りたい柏市のスポーツ情報（令和元年度調査）



■ 課題 ■

市民のスポーツへの参加意欲を促進するためには、公共スポーツ施設に関するだけでなく、幅広いスポーツ関連情報をインターネットやSNSの活用により提供していくことで、利用者が容易に情報入手できる環境が必要です。

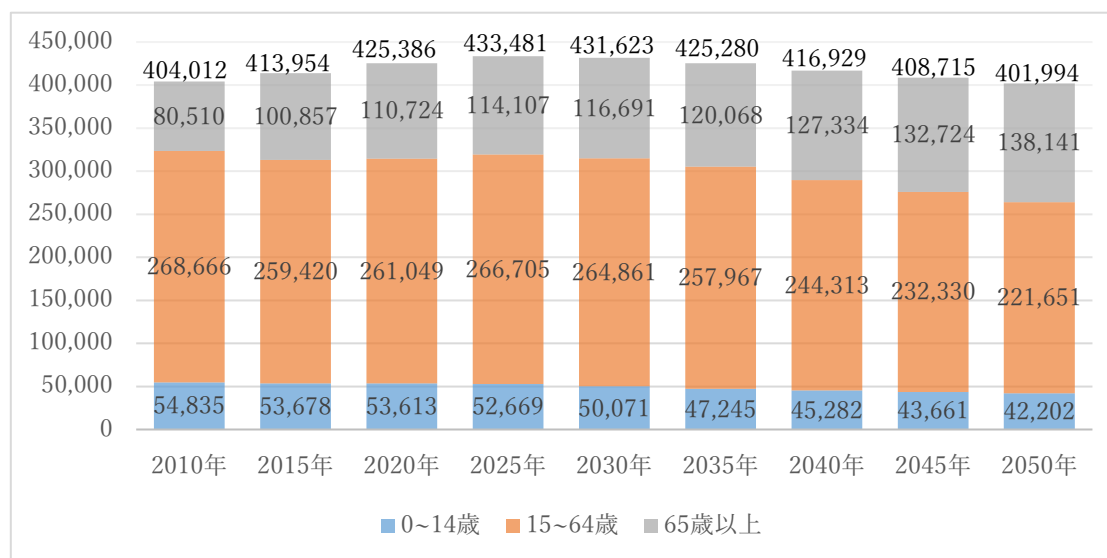
(2) 柏市の地域特性（データ更新）

本市の人口、地域ポテンシャル、プロ・実業団チーム、大学や研究機関の集積、指定管理者制度の導入などからなる地域特性を十分に活かした計画としています。

①人口（少子高齢化の進展）

本市の人口は432,806人（令和2年10月1日現在）となっています。昨年の同時期429,070人に比べ微増ではありますが、令和5年まで増加すると推計した平成30年の将来人口推計よりも人口増が進んでいます。当面、人口の増加が続くことが予想されますが、人数、構成比ともに、生産年齢人口は減少し、後期高齢者の増加が見込まれており、スポーツ推進においても、少子高齢化も踏まえた長期的な健康づくりや体力づくりを意識した施策の展開が求められています。

図 年齢3区分将来人口推計



（柏市「将来人口推計（平成30年4月）」より）

②地域ポテンシャル（変更なし）

本市は、東京都心から約30kmに位置し、情報や産業、交通の基盤が充実していることから、県内外の地域との交流や相互の連携が行いやすい立地条件にあります。また、利根川や手賀沼など豊かな自然環境に恵まれているほか、テニスコートや競技場、野球場を備えた県のスポーツ施設があります。

③ プロ・実業団チームとの連携（団体リスト更新）

本市には、柏レイソルをはじめ、多くのプロ・実業団チームが拠点を置いて活動しています。こうしたトップレベルチームの競技者や指導者などの人材を積極的に活用したスポーツ推進事業を進めています。

図 市内のプロ・実業団チーム

柏レイソル（サッカー：Jリーグ）
ENEOS サンフラワーズ（女子バスケットボール：Wリーグ）
積水化学女子陸上競技部（陸上）
千葉エンゼルクロス（女子バレーボール：Vリーグ）
YBC 柏（硬式野球）
JR東日本野球部（硬式野球）
トルエーラ柏（フットサル：Fリーグ）
TTC（吉田記念テニス研修センター）
柏ゴールデンホークス（チアダンス）

④ 柏市医師会等・医療機関との連携（一部文言修正）

近年の健康意識の向上により、健康的な体の維持や生活習慣病の改善などの健康面に対して、スポーツによる効果が期待されています。また、マラソン大会等における要救護者のサポートを目的とした医師や看護師の派遣など、専門的な知識を有する柏市医師会等・医療機関との連携を進めています。

⑤ 大学、研究機関との連携（変更なし）

本市には、東京大学や千葉大学をはじめ、多様な研究領域を対象とする大学が多く立地しています。特に、柏の葉キャンパス駅周辺地区では、大学との連携によるまちづくりが進められており、今後は、これらの研究や人材、施設などを活用したスポーツ推進に努めています。

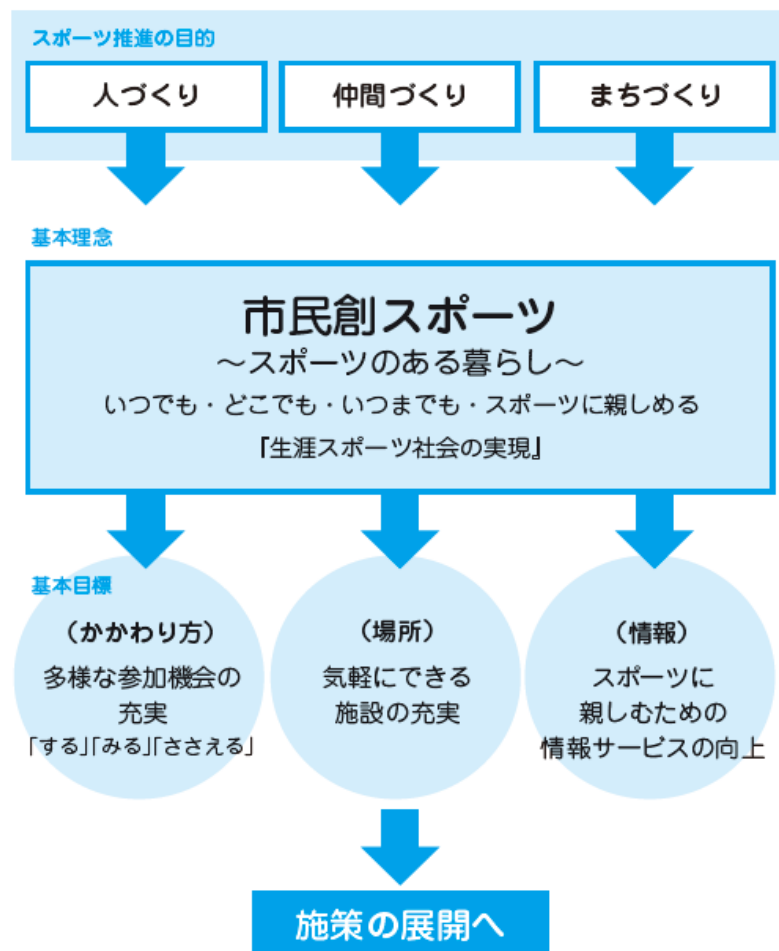
⑥ 指定管理者制度の充実（変更なし）

本市は、スポーツ施設への指定管理者制度を平成18年4月から導入しました。これにより、施設の管理運営において住民サービスの向上を図るとともに、指定管理者による自主事業を展開し、住民ニーズに 대응しています。

(3) 計画の基本理念と基本目標（変更なし）

スポーツを取り巻く環境や本市のスポーツの現状と課題を踏まえ、計画の基本理念を設定します。また、それに基づいた基本目標を掲げ、本計画の施策を展開していきます。以下は、計画全体の基本的な考え方です。

図 計画の基本的な考え方



① スポーツ推進の目的（変更なし）

これからのスポーツ推進は、競技力の向上や健康・体力づくりにとどまらず、生きがいや仲間づくり，地域コミュニティの形成，ひいてはまちづくりに大きく貢献することが期待されています。本計画では、「人づくり」「仲間づくり」「まちづくり」の3つの視点から本市のスポーツ推進の目的を整理します。

人づくり

科学技術の高度化にともない、運動不足による体力低下や生活習慣病の増加と低年齢化が問題となっている中、スポーツは、競技力の向上だけでなく心身の両面にわたる健康の保持増進や個人の生きがいづくりに貢献するものとして期待されるようになってきました。体力は人間のあらゆる活動の源であり、意欲や気力の充実に大きくかかわっていることから、スポーツによる元気な人づくりが求められます。

[心身の健康づくり，生きがいづくり]**仲間づくり**

情報化の進展により、対面でのコミュニケーションが不足がちになり、他者とのかかわり方に様々な問題が生じています。そのような問題に対し、スポーツは、感動を共有したり、支えあったりすることで、家族、友人、仲間との絆を深めていくきっかけとなることが期待されます。

[感動の共有，ささえあい，ふれあい]**まちづくり**

都市化の進展にともない、人と人とのつながりが希薄化する中で「する」「みる」「ささえる」といった多様なかかわり方ができるスポーツは、地域コミュニティの活性化や再生につながるものとして期待されます。

[地域コミュニティの活性化・再生]

② 計画の基本理念（変更なし）

本市におけるスポーツ推進の目的を踏まえ、全ての市民が様々なかたちでスポーツに親しむことができるように、本市のスポーツ文化を育む考え方として、「市民創スポーツ～スポーツのある暮らし～」を基本理念とします。

この基本理念には、みんなで力を合わせて、自分に合ったスポーツの楽しみ方や空間を見つけ出していく（創り出していく）、そうした思いが込められています。

③ 計画の基本目標（一部改訂あり）

計画の基本理念に示した本市の目指す生涯スポーツ社会を実現するため、「かかわり方」「場所」「情報」といった3つの視点から基本目標を掲げます。

ア かかわり方：多様な参加機会の充実（数値目標の年数の変更）

市民一人ひとりが、それぞれのライフステージ、ライフスタイルにあったスポーツを見つけだすことができたときに、はじめてスポーツは生活の中に定着していきます。そのためには、スポーツを「する」だけでなく、「みる」「ささえる」などの多様な関わり方の機会を提供していくことが重要です。あらゆる市民が楽しく、気持ち良くスポーツに親しめるように、多様な参加機会の充実を進めていきます。

[数値目標]

生涯スポーツ社会を実現するため、5年後に達成されるべき目標を定めます。

『スポーツ実施率（週1回以上）65%以上』を目指します。

成人の週1回以上の運動やスポーツを実施する人の割合

参考：アンケートによるスポーツ実施率

平成18年度 33.6%

平成22年度 43.4%

平成26年度 40.1%

令和元年度 47.3%

イ 場所：気軽に利用できる施設の充実（変更なし）

生活の中にスポーツを定着させるためには、気軽に利用できるスポーツ施設の充実は欠かせません。そのため、既存施設の有効活用の促進、国や県の行政機関、大学や企業の協力による利用施設の拡充などの環境の整備を進めていきます。また、公共スポーツ施設の老朽化などの問題が出てきています。柏市公共施設等総合管理計画において、計画的な修繕、改修を行い、現有施設の長寿命化を図ります。

ウ 情報：スポーツに親しむための情報サービスの向上（一部文言修正）

生涯スポーツの推進には、市民のニーズに応じた情報の提供は欠かせません。そのため、インターネットやSNSを活用した情報サービスの充実を進めていきます。また、スポーツの意義や必要性を理解し、自らスポーツに親しむ市民を育成するため、啓発事業にも積極的に取り組んでいきます。

4 第3章 計画の取り組み

(次回審議会にて施策の再構成した計画案として提示予定)

施策体系は、前章の基本目標を推進していくために必要な取り組みを施策構成として整理したものです。本計画では、「多様な参加ができる『する』スポーツの充実」「魅力ある『みる』スポーツの充実」「感動を分かち合う『ささえる』スポーツの充実」「気軽に利用できる『場所』の充実」「スポーツを楽しむきっかけとなる『情報』の充実」という5つの基本施策に分けて個々の施策を体系化するとともに、これらの施策を推進していきます。

また、施策の推進にあたっては、新型コロナウイルスをはじめとした感染症の感染拡大を防ぐため、「新しい生活様式」を踏まえた感染リスクの低減を図っていきます。

施策体系（変更なし）

基本施策1

多様な参加ができる「する」スポーツの充実

基本施策2

魅力ある「みる」スポーツの充実

基本施策3

感動を分かち合う「ささえる」スポーツの充実

基本施策4

気軽に利用できる「場所」の充実

基本施策5

スポーツを楽しむきっかけとなる「情報」の充実